

# テーマ「地域の存亡リスクと地方自治」

## 【開催趣旨】

北海道には、炭鉱の閉山による夕張市の財政破綻、平成 28 年の台風 10 号による被害、かつての港町だった小樽市・室蘭市の衰退、目先では JR 北海道の路線縮小による危機など、様々な課題があります。自然の影響、産業の衰退、地域の存亡リスクから立ち上がる仕組みを求めて議論ができることを期待しています。

本フォーラムは、日本地方自治研究学会との共催事業として開催いたします。

全国から多くの団体や会員が集うため、交流とともに豊かな議論の場となればと考えておりますので、たくさんの皆さまのご参加を心からお待ちしています。

### 【フォーラム】

14:00～14:10

◇開会挨拶

14:10～15:00

◆基調講演 1「地域存亡とまちづくり」

山 泰幸氏（関西学院大学災害復興制度研究所副

所長）

15:00～15:30

◆基調講演 2「地域存亡と自治体財政」

西村宣彦氏（北海学園大学開発研究所長）

15:45～17:00

◆パネルディスカッション

司会 石田和之氏（関西大学）

植村真美氏（赤平市議会議員・炭鉄港議員連盟会長）

安斎哲也氏（小樽市議会議員・

若手市議会議員の会前会長・

炭鉄港議員連盟副会長）

南川達彦氏（室蘭市議会議員・炭鉄港議員連盟副会長）

山 泰幸氏（関西学院大学災害復興制度研究所副所長）

西村宣彦氏（北海学園大学開発研究所長）

■日時 2018年9月23日(日) 14:00～17:00

■会場 北海学園大学 7号館 2階・D20 教室

(札幌市豊平区旭町 4丁目 1-40) ※地下鉄東豊線 学園前駅直結

■参加費 1,000 円（申込不要）※学生無料

■主催 日本地方自治研究学会

■共催 北海道自治体学会

■後援 北海道若手市議会議員の会

北海道「炭鉄港」市町村議員連盟

■事務局（問い合わせ先）

永井 真也（室蘭工業大学ひと文科系領域・

北海道自治体学会運営委員）

Tel:0143-46-5831（直通）E-mail:snagai@mmm.muroran-it.ac.jp



## 基調講演者のご紹介

関西学院大学人間福祉学部教授、博士(社会学)

山 泰 幸(やま よしゆき)氏

阪神・淡路大震災から10年目に被災地の大学として2005年に設立した関西学院大学災害復興制度研究所に参加。「災害や過疎からの地域復興」や「住民主体のまちづくり」をテーマに、住民・行政・NPO等と連携しながら、フィールドワークを通じて実践的な研究を行っている。

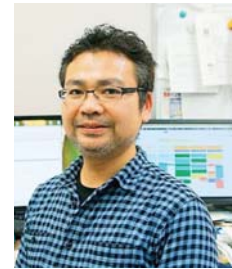
2016年より関西学院大学災害復興制度研究所副所長を兼務



北海学園大学経済学部教授、開発研究所長(兼任)

西 村 宣 彦(にしむら のぶひこ)氏

2006年に財政破綻した夕張市の財政悪化の経緯や財政再建プロセスの資料分析やフィールド研究を続け、2016年には第三者委員会委員として、同市の財政再生計画の「緊縮財政一辺倒から地域再生重視への全面改定」を提言。地方財政研究者の立場から、地域の再生や持続可能性の向上に資する方策を実践的に研究している。



### 【日本地方自治研究学会】

<http://www.skattsei.co.jp/tihoujichi/>

日本地方自治研究学会は、地方自治の科学化、近代化、民主化のための理論および政策等の調査研究を進め、地方自治の発展に貢献することを目的として、1984年6月23日に設立されました。現在、地方自治が重要な論点の一つになっていることは明らかです。

本学会は、研究者、自治体関係者、公認会計士などの専門家、地方自治に関心を持つすべての人が共同して研究に取り組む組織体です。その研究成果は、年次大会、査読付きの学会誌『地方自治研究』出版などで発表されています。

### 【北海道自治体学会】-今、私ができること-

<http://jititai.net/hokkaido/>

北海道自治体学会は1995年に設立されました。憲法には地方自治の本旨が定められていますが、永らく自治体は中央省庁の末端で事務を執行する地方行政機関でした。しかし、時代は大きく転回しました。自治体の政策自立は必然的な時代の流れです。自治体学とは、「現代社会の課題を解明するために理論枠を組み替え、基礎概念を再構築した自治体関連の諸学の総称」と定義できます。研究者は現場の実務から理論家のヒントをつかみ、職員、市民、議員は理論と基礎概念に導かれてまちづくりを実践します。

北海道自治体学会は、フォーラムやシンポジウム、ニュースレター、SNS等によって自治に関する実務と理論の出会いを目指す場であります。